

| | |
|---|--|
| <p>【技術の名称】 MCD 耐震補強工法 -三菱重工式溝形鋼拘束型ダンパーを用いた耐震補強工法- (改定)</p> | <p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第07-12号 改 性能証明発効日：2008年5月8日</p> <p>【取得者】 三菱重工鉄構エンジニアリング株式会社</p> |
|---|--|

【技術の概要】

本技術は、2004年7月6日に(財)日本建築総合試験所建築技術性能証明 第04-08号として性能証明され、2008年5月8日に申込者の改訂を行った MCB ダンパーのうち、塑性化領域を芯材の一部に限定したタイプ A を制震ダンパーとして用いた既存鉄筋コンクリート造(RC)骨組の耐震補強工法である。同ダンパーの芯材(鋼板)は、溝形鋼と平鋼で囲まれ座屈拘束されている。

本耐震補強工法には、「外付け工法」と「内付け工法」がある。前者では、屋外側より既存 RC 骨組に接合される鉄骨造骨組内において鉄骨梁中央部と、後者では、既存 RC 梁直下において既存 RC 梁中央部とそれぞれ接合された鋼製束材の両側に 1 基ずつ計 2 基の制震ダンパーが配置される。

【技術開発の趣旨】

本工法は、従来の鉄骨ブレース補強のように、建築物の屋外面を遮断し、美観を損なうことなく、制震ダンパーのエネルギー吸収能力に期待した耐震補強を実現することを意図して開発されている。

【性能証明の内容】

申込者提案工法による制震ダンパーと既存 RC 骨組からなる耐震補強架構は、同工法設計指針に示された解析方法によって導出される復元力特性および終局耐力を有すると判断される。

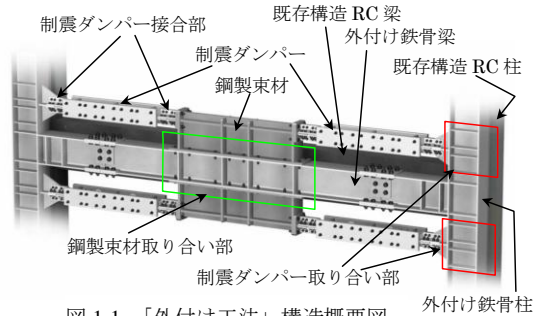


図 1-1 「外付け工法」構造概要図

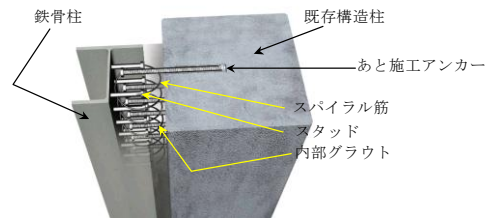


図 1-2 「外付け工法」鉄骨と既存部材の接合部



図 1-3 「外付け工法」施工イメージ図

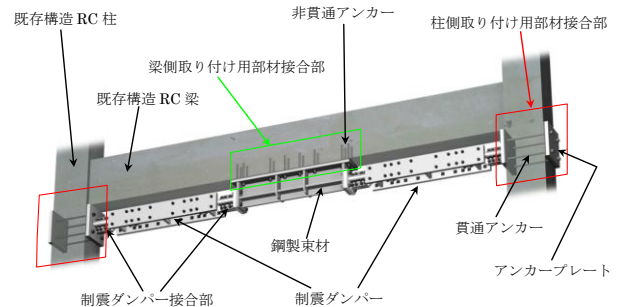


図 2 「内付け工法」構造概要図

【本技術の問合せ先】

三菱重工鉄構エンジニアリング株式会社
 〒730-8642 広島市中区江波沖町5番1号

担当者： 平尾
 TEL： 082-292-1114

E-mail： katsuyuki_hirao@mbe.mhi.co.jp
 FAX： 082-294-1430